



第60号
平成29年8月
発行 NPO法人小野川と佐原の町並みを考える会 佐原町並み保存会
お問い合わせ 佐原町並み交流館
電話 0478(52)1000

佐原の町並みを知る会が開かれる

重伝建地区保存に共通の理解を

香取市佐原が日本遺産に選定され、佐原の大祭がユネスコ無形文化遺産に登録される中、暮らしの場が文化財である意味と観光と地域の経済の調和ある発展のため、保存運動の初心に戻って考えてみよう、「佐原の町並みを知る会」(第一回)が六月三日(金)佐原町並み交流館で開催されました。

当NPOの理事長・佐藤健太良氏は「重伝建地区の選定から二十一年を経て、牧野バイパス、電線地中化等のインフラ整備や三菱館も修復が近くなる中、佐原の古い町並みが減りつつある今こそ、住民の92%の同意書を得られた原点に戻って考えよう」と開会挨拶しました。

高橋賢一氏(全国町並み保存連盟理事)の講演は、佐原が町並み保存運動の取り組み始めた頃に作成した資料を参考に進められました。

保存運動はあくまでも住民中心であり、行政がこれを助けるとい形で進んで行く。佐原は重伝建地区選定を地区住民の高率の同意書を得て実現したし、関東で最初の重伝建地区選定を受けたという誇りがある。

地として絶好の地形の特性を持つ。家並みも多様な建物があり生活実感があがる。



町並みの特徴を説明する高橋賢一氏

古い町並みは、連続性にこそ価値があるので、空き地が出来れば板塀や生垣で隠して連続性を維持すべき、等々。かつての佐原の人々の熱意を強く感じさせてくれた講演でした。

重伝建地区保存条例は、文化財保護法に基づいており、現在、重伝建地区は百四ヶ所以上に増えたが、それなりの理由がある。「重要」とは「国」の指定であり、規制があるが助成もある。

景観基準と修理基準を守って外観保全に努力するが内部は合理的に改築してよい。

指定から二十余年が経ち、時代も変わったので考え直す時期に来ているとも思う。

しかし、いかに佐原の町並みが素晴らしい特性を持っているかを市民は知るべきである。香取街道も小野川も同じように湾曲し蛇行している。屈曲部を過ぎると景色が一変するのは観光

これからの勉強会の概要

- 1 保存は何を残すのか出発点に学ぶ。
- 2 町並み保存の歩みと社会背景。
- 3 町並み保存制度と伝建。
- 4 佐原の町並み保存の歴史。
- 5 町並み保存とまちづくり。
- 6 先進地事例①倉敷、金沢、高山。
- 7 先進地事例②奈良町、宗像市、真壁市。
- 8 佐原の修理・修景。
- 9 佐原町並み保存が果たした役割。
- 10 佐原のまちづくりと今後。

消火用ホースの交換

五月一日(月)の午前九時三十分から重伝建地区に三十四ヶ所ある消火栓ボックス内のジェット・ホースの交換作業が、香取市役所都市整備課の職員四名とNPOとが協力して行なわれました。

平成十四年の消火栓設置から十五年が経過し交換時期になりました。

全員がほこり除けのマスクをして消火栓ボックスを開けて、溜まったゴミや虫の死骸などを掃きだし、栓をひねると出てくる黄色い水がきれいな水になるまで小さなバケツで受けて側溝に棄てます。長さ十五メートル、直径40ミリの丸めたホースを栓にセットし、もう一本のホースを上部のハンガーに掛けて終了。普段は見過ごされていた施設ですが、いざという時には真っ先に活用しなければならぬ大切な施設です。



炎天下、リアカーを押しての交換作業



小野川清掃(桶橋を越えて草刈り) 5/21



ユネスコ無形文化財登録祝賀会会場 4/29



市社会福祉協が「考える会」を表彰 2/21

～千葉県観光ボランティアガイド協議会～ 平成二九年度「総会」が佐原で開催

さる五月十八日(木)に佐原町並み交流館において、千葉県内各地から八十名を越える多くの出席者を迎えて、平成二九年度「総会」が開催されました。

佐原からは関係者十八名が参加しました。

本協議会には千葉県内を「ベイ・東葛」(18)と「南房総・九十九里」(11)と「北総」(9)の三つのエリアに区分された三八団体が所属しています。

総会は、鈴木会長(銚子市)と来賓の方々のご挨拶に続いて議事に移り、二八年度活動報告と決算報告が承認されました。

次に、二九年度の活動案、予算案が提案されて同じく承認されました。

役員改選では、新会長に橋本文江氏(いすみ市)が選出され、他の役員も原案通りに承認されました。

今年度も「人材養成・組織強化」が課題となっています。最後に、出席者全員の自己紹介と各団体の活動紹介を行ない閉会となりました。

町並み案内で交流

午後は交流会を兼ねて、佐原のボランティア会員の案内により、三班に分かれて町並みを散策しました。一班で、ガイドイングリシーバーを利用しての案内を試みました。この方法は、狭い道路や混雑する館内等で有効に活用できると思います。

参加者の皆さんから「楽しいガイドで好感が持てる」という感想をいただきました。

また、「小野川沿いや落ち着いた町並みに心がなごむ」という反面、「通過車輛が多くゆっくり見学や買物ができない」という感想も多くありました。

五時からは、駅北口の「タイムベル」において、三十余名の参加者で懇親会が開かれました。他地区との情報交換をしながら親睦も深まり和やかなひとときを過ごしました。

千葉県内の観光ボランティアの現況を知ることが出来、有意義な総会でした。

(伊藤待子)

第十三期・総会にて 定款の一部変更・人事

五月三日(火)に開催された総会において「NPO法人・小野川と佐原の町並みを考える会」の定款の一部が変更されました。

(改正部分) (第9章) 公示の方法

第55条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに官報に掲載して行う。ただし、法第28条の第1項に規定する貸借対照表の公告については、内閣府NPOポータルサイト(法人入力情報欄)に掲載して行う。

この変更は、情報化に伴い、平成



作品の前に立つ篠塚喜一さん

佐原の大祭・ユネスコ無形文化遺産登録記念 ペン画展 篠塚喜一さん

佐原の大祭が、昨年十二月一日にユネスコ無形文化遺産に登録されたことを記念して、篠塚喜一さんの「佐原の大祭山車ペン画展」が四月四日～五月十四日まで、佐原町並み交流館一階ホールで開催されました。展示されたペン画は、本宿・新宿地区の山車全二十四台。



仁井宿の大鷹のペン画

篠塚さんの画法は、ペンで線を描き、陰影を硬軟の鉛筆で表現するのですが、鉛筆の擦れで原画全体が汚れてしまう難点はコピーを取ることで克服。また、ペン画の味を引き出すため、色付けは赤と黒に限定しています。

篠塚さんは上宿の生まれ。三年前に、それまでの趣味の写真に代わる表現方法が何かないかと試行錯誤する中、ボールペンと鉛筆を使ったペン画に行きつき、独学で取り組み始めました。

交流館の主な行事

- 二八年度に特定非営利活動促進法が改正されたためです。
- また、役員人事の交替年度に当たり一部の理事の交替がありました。
- 五月二日(日) 小野川清掃
- 六月三日(土) ～五日(日) 水郷あやめパーク・あやめ祭り「シャトルバス・町並み観光案内」
- 三、四、十、十一、十七、十八日 小野川両岸歩行者天国
- 六月六日(火) ～十一日(日) 日本盆栽協会・水郷佐原支部・盆栽展
- 六月二日(木) ～七月三日(日) 佐原の光景写真展(佐原フォトサークル四季彩、他)
- 七月二九日(土) 香取市国際交流協会「日本文化体験・身近にお茶を楽しむ会」
- 八月一日(火) ～二十日(日) 北澤聖江「佐原・大祭・母と子」と絵画展
- 二月四日(土) ～三月二六日(日) さわら雛めぐり展示。
- 三月十八日(土) さわら雛舟
- 四月四日(火) ～五月十四日(日) 篠塚喜一「佐原の大祭・ペン画展」
- 四月十五日(土) ～五月十四日(日) 佐原五月人形めぐり展示
- 五月十五日(月) ～六月四日(日) 樋の道・切り絵サークル作品展(野口正博講師)

小学生向け・地図づくりDVD完成 地図づくりで伊能忠敬の偉業を学ぶ

NPO「小野川と佐原の町並みを考える会」は平成二十九年に、一年余にわたって「成田空港周辺地域の共栄につながる協働事業」の支援を受けて、小学生が伊能忠敬の測量手法を学んで忠敬の偉業を知る事業を行って来ました。その成果を一枚のDVDにまとめました。

このDVDは、今後も継続して教育現場で、教師の指導のもと、これを見ながら、子どもたちが自主的に地図づくりが出来るように「伊能忠敬に学ぶ・夢をか

伊能忠誨と祖父忠敬(その1)

ただのり

伊能忠誨は忠敬の嫡孫であり、幕府天文方で天文暦学を学んで将来を期待されていた。だが、21歳で夭折したため「未完の天文暦学者」と呼ばれている。

なお、伊能忠敬記念館の国宝2,345点の中には忠誨に関する資料も含まれている。

忠誨は文化3年(1806)に父景敬(忠敬の嫡子)と母リテのもとに生まれた。幼名は三治郎で忠敬と同じ。

忠敬の江戸日記に初めて三治郎が登場するのは文化4年8月14日の「三治郎来る」で忠敬62歳、三治郎1歳である。早速、佐原村領主の旗本津田家屋敷や幕府の浅草暦局に連れて行き、お披露目をしている。

文化8年11月25日、66歳の忠敬は足掛け4年に及ぶ第8次(九州第2次)測量に出発した。出発を前にして、忠敬は景敬宛の書状で「寒い季節に上京させるのは如何と思うが、三治郎に直面しておきたい」「日本に稀なる大剛者の間宮(林蔵)に三治郎をぜひ会わせたい」と書き送り、林蔵との対面を実現させた。

間宮林蔵は、忠敬の孫の教育観に大きな影響を与えたようで、佐原の家族に宛てた手紙には三治郎の教育については「間宮も同意見」、「間宮の助言の通り」といった言葉が記されている。

忠敬は、子供の玩具というには余りにも貴重な品物を三治郎に与えたようである。文化9年1月2日の手紙には「銀仕立ての大小刀を悦んでいるだろうか。帯解きまでは壊さないように。これは私が国々を年来帯してきたものなので縁起が良い」と記している。

忠敬は測量の際、磁針が狂わないようにと竹光を帯していたといわれるが、三治郎に与えた「国々を年来帯し」ていた「銀仕立ての大小刀」とはどの様なものであったのだろうか。

忠敬をして「日本一の大難所の渡海に候」と嘆じさせた屋久島、種子島測量のさ中、佐原から手紙が来た。三治郎が津宮の久保木清淵(忠敬の漢学の師であり親友)の元で手習いを始めたこと、将棋を覚えたことを知らされて「大いによろしい」と返信している。

苦難に満ちた第8次測量の中で孫の成長ぶりを伝える佐原からの手紙は忠敬をどんなに力づけたことであろう。

(玉造 功)

完成したDVD



左はNPO「考える会」考案の杖先方位盤。右は明治時代製と思われる杖先方位盤。彎窠羅鍼わんからしんと呼ばれる。

なえよう「地図づくり」と題した約十五分のやさしく解説した映像です。「シマ・ワークス製作」。

内容は、忠敬が行った導線法と交会法を使って日本地図を作る方法を具体的に解説しています。まず、A地点とB地点に置いた梵天間の距離を測ります。忠敬が五五歳の時、蝦夷行きで実施した歩測で行います。

次に、当NPOが考案した杖先方位盤をA地点に置きます。盤上の磁石が指す北からとB地点に向う線との間の角度を測定します。B地点では、A地点を振り返ってA地点に向う線と磁石が指す北からとの間の角度を測定して、先にA地点で測定した角度との差が百八十度なら正しい測定となり、次々と同様の測量をして進んでいきます(導線法)。また、高い目標物一つ決めておき、全地点からその方向角度を測定し記録しておき精度を高めます(交会法)。作図は出発開始の地点に戻ることで正確さを知るといふ大変興味深いものです。

NPOの主な事業

- 第一日曜・骨董市開催(八坂神社)
- 二月五日(土)「伊能忠敬、歩測・地図づくり学習体験事業・作品展示・表彰式」(成田空港)
- 全国町並み保存連盟関東プロック大会・関東町並みゼミ(藤沢)
- 三月一、二、六、十八、二十五日 さわらば開催
- 三月十八(土) 雛舟
- 四月十四日(金) 観光ボランティア総会開催打ち合わせ
- 四月二十九日(土)、三十日(日) ユネスコ無形文化財登録記念祝賀山車引き回し
- 五月十五日(月) 消火栓ホース交換完了(三四箇所)
- 五月十七日(水) 伊能忠敬墓前祭
- 五月十八日(木) 千葉県観光ボランティアガイド協議会総会
- 五月二十二日(日) 小野川清掃
- 五月三十日(火) 平成二九年年度・第十三期総会、水郷三都観光推進協議会総会
- 五月二十四(水) 伝建協総会(眞壁)
- 六月三日(土) 「町並み保存と観光活性化について」(佐藤理事長講演・交流館)
- 六月三、四、十、十一、十七、十八日 小野川両岸歩行者天国通行整理
- 六月八日(木) 小江戸さわら会総会
- 六月二十三日(金) 体験研修打合せ(神南小)

第一回佐原の町並みを知る会開催

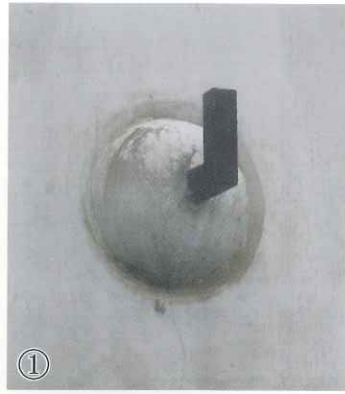
町並みを歩いて(その十五)

重伝建地区の隠れた魅力を発掘

蔵の壁の突起物

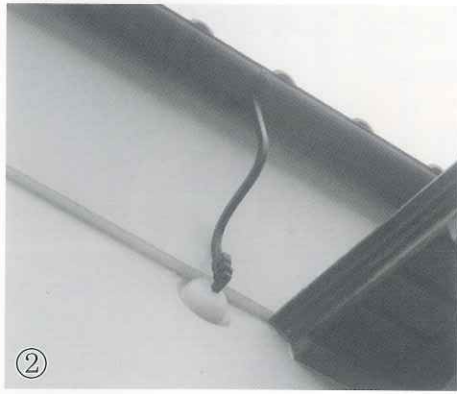
店舗を土蔵造りにして火災の類焼を防ぎ、店裏の土蔵とあわせて飛び火も防ぎます。「裕福さ」の象徴ともなったようです。蔵の壁面の装飾物は見慣れてはいるが、何の目的で付けたのか。

写真①の壁面には、漆喰を半円形に盛り上げた丸い突起物の中心に鉤形(かぎがた)の太い釘が突き出ています。釘は「折釘(おれくぎ)」、丸い盛り上がりは「つぶ」「饅頭」



とも呼ばれます。壁の塗り替えや屋根の補修の際「はしご」や縄をかけた時に壁の損傷を防ぎます。火消しが屋根に上がる足掛かりにも。鉄の釘が錆びぬよう露出を最低限にして大きく丸く盛り上げます。

また「つぶ」のないし字型の折釘は、漆喰を守る下見板(したみいた)を取り付けるために利用されます。蔵壁の表面にはあとから釘が打てな



いので壁の芯に折釘を打ち付けて壁を仕上げます。

写真②の雨樋を下から支えている長い鉄製の装具も美しいものです。

蔵の壁の黒いのはなぜ

漆喰の壁は接着剤(昔は天然の藻をまぜた消石灰を塗って)いて基本は白色です。極彩色にするには技術が必要で、黒以外はないらしい。黒色は菜種油を燃やした「油煙」からつくる「黒ノ口」というものを白色の上に薄く塗り、絹布で磨き光沢を出すため最後は素手で磨きます。黒色は「粹な色」として「江戸黒」と呼ばれて江戸では人気でした。



小野川に沿う正上の中蔵

観光案内に感謝の礼状(その17)

13日の土曜日のバス旅行では雨の中をいろいろとお世話様になり本当にありがとうございました。

雨に降られて、一時は、どうなることかと心配しましたが、お陰さまで充実した佐原見物をする事が出来ました。会員もとても勉強になったと満足そうでした。

どうぞボランティアガイドの皆様にもよろしくお伝え下さい。私共の会長からもよろしくとのことでした。

(千葉市・花水生会)

昨日は雨の中、予定と違うコースにも臨機に対応しご案内をしていただきありがとうございました。

(君津市国際交流協会)

先日実施しました生活科の学習では、大変お世話になりました。子供達は日頃は目にする事の出来ない所まで探検出来て大喜びでした。その結果を発表し、記録する姿は生き生きとしていて担任一同は大変嬉しく感じました。同封の手紙は、子ども達が感謝の気持ちを入れて書いたものです。

(香取市立佐原小学校第2学年)

伊能忠敬第七次全国測量

九州へ第一次の旅

隊員のべ十八人、文化六年(一八〇九)八月二七日に江戸を発ち、中仙道を行き、諏訪、木曾から岐阜まで約二ヶ月、淀から山陽道へ。

菅茶山(かん・さざん)

往路、十一月二十七日、備後国に入り、神辺本陣の菅波武十郎宅に宿泊した際、頼山陽の師である菅茶山と懇談した。忠敬は久保木清淵著「補訂・鄭註孝経」(序文は忠敬)を茶山に贈呈し、茶山からは忠敬の全国測量を讃えた漢詩が贈られた。

豊前小倉で越年。小倉に十一日間滞在した後、ここを九州測量の始点として本隊と支隊は付かず離れず二班で九州の測量が始まった。

諸侯より次々と贈物

文化七年一月二十一日、八屋村(現在の豊前市)に宿泊した時、見舞いに来た小倉郡方元役の田中種右衛門より領主からの贈物として「滋飴一陶」を手渡された。

滋飴(じあめ?)とは、麦芽糖から製した御用飴、小倉の三官宇兵衛製で「三官飴」とも。菓としても重宝された引き飴で小倉藩特産の「上野焼」の壺に入れる。

四国でも同様のことがあったが、九州でも諸藩から特産品の差し入れがあった。忠敬は江戸へ帰着後、お

土産をもらったお礼に各大名家を回っている。

屋久島・種子島行き断念

鹿児島に入る。山川湊まで南下したが、屋久島・種子島への渡海は、風向きが悪く断念せざるを得なかった。このため残念ながら九州測量を一回で終えることが出来なくなり、いったん江戸へ帰ることになった。天草、熊本、大分、福岡から中国、近畿、中部の街道を手分けて測量しながら江戸へと向った。

箱田良助(榎本武揚の父)

測量隊メンバーに内弟子・箱田良助(次男が後の榎本武揚)が加わっていた。帰路、文化八年二月十二日、箱田村の実家(庄屋・細田園右衛門宅、良助は次男)に宿泊した。

中国、近畿、中部の主要な街道を歩き、長野、甲府を経由、内藤新宿の涼野屋で一時休憩後、測量隊は解散した。忠敬の長女妙薫と三女お琴が付き添い、忠敬の嫡男景敬の長男三治郎(忠誨)と次男鏡(鉄)之助が出迎えた。

文化八年(一八一)五月八日に江戸に帰着。二年近い六三一日に及ぶ第七次測量を終えた。

